

特集 英語を学ぶ視点の育成

自己表現につながる
英語教育を求めて

森永正治 (北海道教育大学)



はじめに

筆者の大好きな英語教育目標論は、故ライシャワー駐日大使のもので、大きくは Personal Enrichment と Utility の2つであり、後者は「読むこと」と「自己表現」というものです。氏は、我が国が諸外国としっかりと対話してこの地球社会を生き抜いていくためには、外国語、それも主として英語の実践的なコミュニケーション能力が子どもたちに育成される必要があると強調しました。現在の中学校レベルでの英語教育は、遅まきながら氏の願っていた路線にあるように思われます。英語を話したり書いたりして自分の考えを外国人に理解してもらったり、あるいは直接口頭で話し合える能力は、これからの社会では極めて重要なものです。中学校の最初の段階から発音や自己表現をきちんと学習させることが大切になってくるわけです。

英語学習の一番の喜びは、自分の考えを人前で、しっかり・はっきり・堂々と発表できた時に味わえるものであり、このことは、例えば英語スピーチ大会や暗唱大会等に一度でも参加すればわかることでしょう。あるいは、日本のことを尋ねる外国人の質問に、満足いく答えができたときにも感じるかもしれません。これは *NEW CROWN* が重視している「日本文化の発信」の姿とも重なります。自己表現能力の開発と比較文化的な態度の育成の具体的な第一歩を、すべての学習者に、中学時代に一度は体験させることは極めて意義深いものだと思います。

この貴重な経験を得させるために、日常の授業ではどのようなことに注意しなければならないでしょうか。英語は生徒諸君の日常生活では何分の一かの小さな部分しか占めておりません。したがって、他

教科の学習においても、日々の生活においても、様々な事柄を母語である日本語で深くよく考える習慣を身につけさせる必要もあります。そして、英語教育の立場から言えば、だんだん英語でも考えられるようにさせなければなりません。

NEW CROWN は、本課本文の学習が、すぐ次の *DO IT* シリーズに有機的に連動し、最終的には総合的に自己表現・発信活動につながるように配慮していますので、教科書の内容のすべてが、学習者の血となり肉となって、生涯を通して、生きて働く大切なものになると信じています。

では、学年ごとに少しずつ見ていこうと思います。

1年生の場合

現行版と同じように、自己表現の基本は、「名前」であるとの考えから、「氏十名」を提唱しています。英語による自己紹介を生涯で何回くらいすることになるかは、一人ひとり異なるでしょうが、その第一歩がここにあります。いつ必要になっても、ゆっくり・はっきり・しっかり・明るい声と笑顔で言えるようにしたいものです。1年生では他にも、自分の好きなものを紹介したり、数について言ったり、自分がしたことについて言ったり、というように、様々な自己表現の場面が出てきます。1年生の時の楽しくくつろいだ雰囲気での学習・表現・発信活動が、その後の学習を左右しますので、特にいつでも気持ちよく発表できるような配慮が大切です。

2年生の場合

先にも触れましたが、自己表現の最たるものは英語によるスピーチでしょう。

たとえば自分の夢を英語で話してみる経験は、長

2年 LESSON 5

I want to be a tree doctor. Why?
First, I like trees. In spring, I go to the park to see trees. Fresh leaves cover the trees. The trees are growing. They are beautiful.
Second, some trees are sick. We must take care of them.

★ Koji went to the park.
Koji went to the park to play soccer.

CHECK IT—①聞いてみよう ②読んでみよう

doctor fresh leaves leaf cover grow sick care take care of

[dɒktə] [frɛʃ] [li:vz] [li:f] [kʌvə] [grəʊ] [sɪk] [keɪ] [teɪk keɪ əv]

forty-five 45

い人生の中で大きな意味をもつものです。第5課はそのような内容で、久美が樹木医になりたいという夢を語ります。久美が3つの理由を挙げながら、生き生きと話す様子を中心に学習が展開することになります。一人ひとりの学習者には、先ず久美になったつもりでしっかりと暗唱し発表してもらいます。次に、DO IT—WRITE 1で、自分の夢について一人ひとり十分に時間をかけて、スピーチの原稿づくりに取り組ませます。自分の夢の理由も最低2つくらいは挙げさせます。そして何度も音読練習し、暗唱し、クラスの中で発表します。発表に際しては、TRYにも挙げられている事項「大きな声・英語らしい発音・アイコンタクト・スマイル・ジェスチャー」などに留意させます。そしてお互いにどんなところがよかったか、もっと改善できるところはないかなど、「評価カード」も記入しながら学習し合います。できれば他のクラスや学校との交流も持てれば素晴らしいと思います。とにかく、前述の通り、英語で自分の夢を大勢の前で発表したという経験は、一人ひとりの学習者には大きな自信になるはずで、たとえ失敗した学習者がいても、その努力をたたえ、暖かく励ましてあげることが教師の勤めであることは言うまでもありません。

3年生の場合

Show & Tell は生徒諸君が大好きな活動で、自己表現力と比較文化的思考の養成のために極めて有効なものです。第5課 “Places to Go, Things to Do” では、健、ラトナ、久美が、それぞれ行ってみたい場所について説明します。生徒諸君には例にならって自分たちの行ってみたいところを、その理由をしっかりと考えながら発表してもらいます。学習者の目と心を地球の隅々まで向けさせることができるでしょう。続く DO IT—WRITE 1 では、日本文化についての発信の学習が準備されています。2年第2課 “School Web Reports” では「書道、和紙、うちわ、風呂敷」、2年 LET’S READ 1 では狂言「附子（ぶす）」をもとにしたドラマなどについても学習していますので、その復習も兼ねて、総合的に日本文化を発信する学習活動が展開されれば申し分ありません。

また2年生のスピーチの発展として登場する第6課 “I Have a Dream” も感動を与えるレッスンです。そのすぐあとの DO IT—LISTEN 5 の TRY にチャレンジできれば文化祭に向けての英語劇のストーリーを作成する活動も組み込まれていますので、生徒諸君の自己表現力には一層の向上が見られるものと期待されます。

さらに第8課では、日本でも50万人以上の人々の大切な言語になっている手話を扱います。ここでは、手話に関心を持ち、身振り・手振り・顔の表情も自己表現には不可欠なものであることを伝えていきたいと思います。

おわりに

様々な自己表現活動を成功させるためには、まず聞いて理解してから、次に自分のこととして発表するというステップは必要です。NEW CROWN は「聞く」「読む」活動から、「話す」「書く」活動へとうまくつながるように、意識して教科書が作られており、すべての教材が学習者の自己表現・自己発信につながっていきます。題材に込められた熱い思いを是非大勢の学習者にお伝え下されれば幸いです。